

■■■ 東日本大震災へのきもちを結ぶために ■■■

3月11日に起きた東日本大震災に対して、今を生きる私たちの多くは、何ができるのか、何をすればいいのかを日々自問しているように感じます。特に阪神・淡路大震災を経験した兵庫県では多くの人たちが被災地・被災者のためにできることを模索しています。

今回の震災に対してKFCとしても何ができるかを考え、震災翌日の3月12日からKFC地震募金のお願いと在日外国人向け情報の発信を始めました。阪神・淡路大震災の経験から被災者支援においては、日赤や共同募金といった大きな機関から配布される資金だけではなく直接動く支援にまわるお金の大切さと信頼できる情報の大切さを考えたからです。

その後、名前さえ知らなかった東北の街々の被害があきらかになるにつれ、被災者の方々の暮らしや気持ちをたてなおすことは容易でないことがわかります。今回の震災は、被害が広域に及んでいること、津波による局地的被害が壊滅的なこと、福島における原子力発電所事故によって被災地へのアプローチ、サポートが困難になっているなど幾重にも状況を悪化させる事象が明らかになります。

また被害が甚大な東北地方は、交通アクセスも脆弱な地域にあるため安易なボランティアの被災地入りは混乱を増す危険性も高いことから多くの善意を有効に活用するためには、被災地での避難所、仮設住宅などにおける現地支援という選択肢だけでなく、被災者を西日本などの人材供給が容易な地域に移送手段を確保して移送し仮居住住宅への移住、仮救援拠点の設置といった仮居住地域での支援を構築するプランの実現が必要と考えるようになりました。

そのためには、信頼できる被災地で実際に継続して支援を実施していく団体との連携が必要と考え、神戸で長年災害支援に携わってきた被災地NGO協働センターに相談させてもらいながら、KFCとして直接、今回の地震・津波で被害を受けた人たちへの支援を「7ひょうご生活応援プロジェクト」と命名し始めることにしました。

KFCは、阪神・淡路大震災時の外国人支援ボランティアが原点ですが、今回の東日本大震災の支援においては、私たちは国籍や民族にこだわらず支援活動を展開するつもりです。

なぜなら今回の被災地には、KFCが活動をはじめた神戸市長田区のような外国人多住地域はありません。また阪神・淡路大震災後、美談で語られることの多いベトナム人が避難した公園では、メディアに取り上げられる機会の多かったベトナム人に避難物資の提供が集中し同じ公園で暮らす日本人との関係がぎくしゃくしたことなどから考えると実態にあわない支援は、いたずらに被災者の対立を作ることになります。

特に今回の震災後、日本のリーダーたちが語る「国民」、「日本国民」という言葉の多さが生みだすいやな感覚から、KFCは、被災者にも支援者にも日本で暮らす外国人がいるというあたりまえのことを非常時だからこそ伝えたいと思います。

KFCは支援に際して、阪神・淡路大震災の経験とマイノリティ支援団体としての視点から下記の基本スタンスで支援を続けたいと考えています。

- ① 限定した支援（外国人のみとか）にしない・いたずらに被災者の対立を作らないため
- ② できるだけマイノリティへの視点をもつ（言語、手話、非識字者、点字などの視点）
- ③ 安易な弱者優先に流されない・・・高齢者優先、障害者優先が生みだすコミュニティカの欠如を新たな地域でつくりたくないため
- ④ 小さなムーブメントと自覚し波及する仕組みづくりを意識する

KFCが、直接支援を表明してからたくさんの協力の申し出をうけることができています。現在協力団体として10団体が参加してくれています。兵庫県立大学は被災者への物資提供に取り組むだけでなく物資の保管場所の提供をしてくれています。また被災地への先遣隊・派遣隊へのボランティア募集説明会には37名の方が来てくれました。

また運転ボランティアや事務ボランティアにもたくさんの方が来てくれています。

このような力をできるだけ活かしたいと考えていますが、現地に入り被災者の話を聞き、支援の方法を考えていく中で東北の人たちの土地（故郷）への思いの強さは私たちが外で考えるよりも強いことが感じられました。

KFCとしても当初考えていたよりも長い時間軸で考え現在、下記の支援を軸にかかわっていく予定です。

①被災地へのボランティア派遣を現地に

拠点を持つ支援団体と連携して実施する。

②被災者のなかで兵庫県などへの（仮）移住を希望する人に移送手段を確保して移送し、住宅申込、就労サポートなど疎開地・移住地での生活支援を実施する。

③物資提供などから取り残されがちな兵庫県への移住者に対して義捐物資を集め提供することで多くのものを失った被災者への物質的、精神的サポートを行う。

さいごに現在までKFCが行ってきた支援活動ですが、一番大きなこととして今回の支援のために現地に移動・搬送する手段としてのワンボックス車両を購入しました。大変大きな支出ですが、高額なレンタカー使用料のため東北への移動が困難な状況を考え決断しました。現在までKFC含め3団体が、車両を使い計4回被災地へのボランティア派遣・物資提供を行っています。またネパールから送られてきた防寒用ストール（約1000枚）の被災者への提供を仲介するなどもしています。

今後の予定としては、東京のプロジェクト協力団体が南三陸町で毎週日曜日実施している炊き出しの6月19日分を引き受けることが決まりました。KFC支援者のご協力得られればと思います。

今回の災害は、地震という天災だけでなく原発という人工のものが生みだした進行中の人災も含め被災者を苦しめています。

KFCとしてどれだけのことができるかわかりませんが、カミュが小説ペストで書いた「天災のさなかで教えられること、すなわち人間のなかには軽蔑すべきものよりも讃美すべきもののほうが多くあるということ、ただそうであるただけいうために」という言葉にふさわしい人のきもちを結ぶことをしたいと思います。（理事長 金 宣 吉）

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆お弁当ミーティングの紹介

「日本語支援、子ども学習支援が終わったら事務所のスタッフに一言声を掛けて帰る位で、他のボランティアのことあまり良く知らない。」「KFC研修会で日本語ボランティア方と顔を合わすことはあっても交流はない。」という支援者の方も少なくないのではないのでしょうか。

ボランティアの方々がゆっくりと気軽にお話しできる交流の場として、各々自分のお弁当を持ってきて、テーブルを囲んで楽しくおしゃべり(ミーティング)をしています。（開催は不定期ですが月1回程度で12時頃から）

この中では、お互いがどんなボランティアをしているか。どんな教材が良いか。毎週の支援をする中で気になっている疑問や迷っていることを話したり、参加者が受けた研修（例えば「ボラン

ティア実践講座」や「学習者のコミュニケーションを伸ばす授業（教師が変われば学習者が変わる）」…）の内容を紹介するなど互いに勉強したり、様々な情報交換も行っています。

日本語学校の教室学習と違って、ボランティア学習支援は、学習者の希望を聞いて教材や学習内容を決めて始まります。支援方法や内容は、それぞれの支援者毎に全く違うと言っても過言でないほどオリジナルな学習であり、市民ボランティアにしかできない、とっても素晴らしい対話型の活動だと実感することができます。

でも、ボランティア支援者が良いだろうと思っている学習内容が、学習者側からはどのように思われているのだろうか、学習者のニーズや興味、レベルに合っているのだろうか？などの疑問も生じてきます。

そこで、支援者と学習者が現在までの学習内容を振り返りながら満足度や要望を聞き取りできるような「学習者への聞き取りシートの作成」を一度作ってみようかなどと相談し合って現在進行中です。少しだけご期待ください。

和める雰囲気の中でお弁当を持ってきてミーティングに参加してみませんか。

いつでも誰でも、時間が合うなら1回だけでも、何回でも。

「一人で考えきれないこと」や「こんなことをしてみたい」という企画持ち込みも大歓迎です。

（橋本 尚登）

## ◆KFC春のフィールドワーク

### 神戸華僑の足跡を訪ねる～辛亥革命100年を迎えて～

3月12日の定例研修会は、いつもとは趣向をかえて、「神戸華僑の足跡を訪ねる」～辛亥革命100年を迎えて～というタイトルで春のフィールドワークとして、一般の方も参加して総勢17名で実施されました。コースは、兵庫県民会館のロビーに集合して、関帝廟、華僑歴史博物館、孫文記念会館（重要文化財 移情閣）のルートで観て回りました。フィールドワークコーディネーターには孫文記念館主任研究員の徐小潔さんに引き受けていただき、普段聞けない神戸華僑と中国の歴史と文化との関わりを十分に学ぶことができました。天気は曇りでしたが、歩くにはちょうどよい気候でウォーキングと見学を楽しむことができました。

県民会館から関帝廟に行く途中の県庁舎1号館横に埋め込まれた「兵庫県立第一神戸高等女学校跡」と「孫中山先生大アジア主義講演会の地」のプレートは、1924年にこの地にあった県立高等女学校講堂で開催された孫文講演会の記念です。

相樂園から西へ5分程行ったあたりに目を引く極彩色の建物の関帝廟があります。三国志の英雄である関羽を祀った寺で、商売の神様として華僑の方から親しまれています。本堂の中で皆で中国式のお御籤を引きました。

その後、南京町の南にある神戸華僑歴史博物館へ行きました。ここでは、副館長さんに館内を熱心に説明していただきました。華僑が神戸に来た1868年から現在までの歴史がよく理解できました。“落地生根”一粒種が地に落ちて、芽を出し、根を生やし、枝を張り、やがては大樹となる－これが華僑の生き方そのものであるとの説明が印象的でした。

その後、元町からJRに乗り舞子の孫文記念館に行きました。今年は、孫文が指導した中国の辛亥革命（1911年）から100年目にあたっています。日本と孫文、神戸と孫文との関わりを中心に、その頃活躍していた実業家の呉錦堂の生涯、移情閣の変遷などに関する展示を徐さんの熱のこもった説明で観て回りました。

神戸には異国を感じられる建物、場所がたくさんあります。次回も、今回のような異国を感じ、満喫できるウォーキングの企画をお願いしたいと思います。（川淵 啓司）

## ■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

### ◆防災を楽しく学習「イザ！ふたばカエルファミリー・キャラバン」出展

2011年3月13日（日）、神戸市立地域人材支援センターで、イザ！ふたばカエルファミリー・キャラバンが開催されました。当日は春の到来を感じさせる暖かさの中で、参加者・スタッフ全員参加のバケツリレーで幕を開けました。

イザ！カエルキャラバンとは、防災プログラムに参加して楽しみながら防災について学び、ポイントをもらっておもちゃ・日用品のかえっこオークションに参加するという内容です。私たちはプログラム内容の企画段階から携わらせていただき、話し合いの結果、「めざせっ！アジアのぼうさい博士」というプログラムを実施することにしました。

プログラムの内容は、KFCで「定住外国人子ども奨学金事業」の事務局を担っていることなどから、子どもたちに外国を身近に感じてもらえるものにしました。アジアのぼうさい博士を目指して、外国の災害に関する一次試験・二次試験に答えてもらいました。一次試験は、アジアのぼうさいクイズを○×クイズ形式で答えてもらいました。黒板のヒントを頼りにみなさん楽しく解答しているようでした。

二次試験は、ベトナムで洪水が起こり、避難所で困っている人に救援物資を届けるという、外国の地図とベトナム語の和訳を組み合わせたゲームでした。まず、避難所が書いてあるベトナムの地図と救援物資カードを受け取ります。つぎに、救援を求めるベトナム語で書かれた手紙を見て、ヒントを参考に日本語に訳してもらいます。そして、避難所に必要とされている救援物資カードを貼ってもらいました。こちらのゲームは少し難しかったようで、適宜スタッフが説明を加えつつ解答してもらいました。

参加者の方にはゲームからだけでなく、教室の雰囲気からも外国を身近に感じてほしいと思いました。そこで、プロジェクターを使って教室に四川大地震の映像を流したり、アジアの災害の写真を壁に貼ったりと工夫を凝らしました。参加者の方には、ゲームと教室の雰囲気の両方から、外国を身近に感じてもらえたのではないのでしょうか。

私たちKFCは、イザ！カエルキャラバンには初参加の団体でした。周りの団体が既存の教材を使う中、一から手作りの教材で臨みました。初参加ということもあり、不安も大きかったというのが本音です。ですが、教材作りを通じて何度も話し合いを重ねた結果、チームワークが生まれ、当日の運営もスムーズに行えたのではないかと思います。また、私たち学生は普段は生徒として授業を受ける立場にいます。今回は、スタッフとして参加者の方に教えるという、全く逆の立場に立たせていただきました。自分が理解している内容を、どうすれば相手にわかりやすく伝えることができるのかとても悩みました。教材作りからスタッフとして教える側の立場を経験して、日々の講義の裏側を見させていただいたと思います。改めて大学で受けさせていただいている講義のありがたさを感じました。

2011年3月11日14時46分、日本を東北地方太平洋沖地震が襲いました。町を飲み込んだ津波、福島原発の事故による放射線被害などにより、現地の方は不安で眠れない日々が続いていると思います。大学で防災を学ぶものとして、何もできない無力感にさいなまれることもあります。しかし、今は募金やイザ！カエルキャラバンのような防災教育など、できることを・できるところで・できるだけやっていきたいと思います。今回のカエルキャラバンで学んだ子どもたちが、少しでも防災に興味を持ち今回の地震についても考えてくれればと思います。

最後になりましたが、カエルキャラバン参加にあたり、協力して下さったみなさま、本当にありがとうございました。

（神戸学院大学 大森 敬介）

## ◆高校進学おめでとう！

KFCで学習していたベトナム、ペルー、中国にルーツを持つ中学生（1名は高校浪人生）が、無事、高校に進学しました。

今回も発表まで不安でしたが、それぞれが希望校に合格し、支援者の方ともども大変ほっとしました。

ただ昨年度は、日本語学習に通ってきているアメリカのオールタナティブスクールに通っていた16,17歳の姉弟が成績証明書や日本語の問題などから高校へ進学できず、また経済的な理由からインターナショナルスクールなどへも進学できないという問題が発生しました。今回の場合、保護者の一方が日本人だったので教育委員会や学校関係者とも相談しながら考えていましたが、それでも進学がかなわず、親の都合で渡日する子どもの教育については全く保障されていないことを痛感しました。日本の未来を支える子どもの柔軟な受入体制整備を早急に進めてほしいものです。（志岐良子）

## ◆僕と神戸定住外国人支援センター

### ～小学校卒業記念作文～

ぼくは、2008年8月6日に神戸定住外国人支援センターにお母さんと来ました。最初に来た時、新しい塾かなあと思いました。

初めての授業で優しく教えてくれました。休憩時間もあって、おやつもあって「すげえ。」と、思いました。おいしかったです。

ある日、K君にあそびにさそわれて、友達になりました。それで、どんどんどん友達が増えました。

ぼくは、週に二回ここで勉強をしています。ぼくにとっていいことは、休憩とおやつとまんがです。ぼくは、時々、ここに来る時、みんなをびっくりさせようとわざと異常に大きい声であいさつして、よく注意されました。

中学生になったらぼくは、集中して、静かにしたいと、思います。

（小学6年生 ファム ニャット ナム）

## ◆2011年度 在日外国人児童の読書の会

「在日外国人児童の読書の会」は長田区近隣の地域の中で日本語理解が難しい、外国にルーツを持つ子どもに読書の楽しさに触れ、その習慣を身につけることで、日本語の学力や日本の知識を習得する機会を作り、閉ざされがちなマイノリティのコミュニティから日本社会の生活への参加の道を広げる目的で2010年6月から新長田図書館とKFCの共催事業としてスタートしました。初年度は試行錯誤を繰り返しながら、①絵本・紙芝居の読み聞かせ（ベトナム語・中国語等他言語もあり）②参加児童による日本語での紙芝居の読み聞かせ③参加児童による母国語での絵本の読み聞かせ（スペイン語）④児童書の読み物や絵本からのなぞなぞ・クイズ⑤日本語の学習用図書からのことば遊び⑥テーマを決めて、そのテーマに関する説明と本の紹介（例：年越しについて）⑦特別企画としてクリスマス会や折り紙教室、児童により読書の会の看板作り等のプログラムを行いました。その中で、子ども達は自分自身が主体的に参加することに興味を持つとスタッフ達は気がつき、年度末には児童による「名探偵シリーズ」の読み聞かせと推理などのプログラムも追加しました。児童達も自分が参加する事により楽しさを感じ、毎回の読書の会を楽しみにするようになってきています。しかし、図書館を利用するメリットなどの情報が外国人保護者には正確に伝わらず、現在の参加児童数が多くありません（毎回1～5名）。確かに毎週金曜日夕方

(16:00~18:00) という時間が冬場ではかなり暗くなっている事もありますが、行事保険なども掛けており、出来る限り子どもの送迎も行っています。如何に情報を発信するかが今年度も課題の一つです。

2011年度は、初年度の気付きを元に、児童達が楽しみながら本に触れるプログラムの開発を続けていきたいと思っています。また、開催日を土曜日の10:30~12:00に変更し、子ども達がもっと参加しやすいように変更しました。さらに、長田周辺の小学校へ出かけて「出張読書の会」を行う予定です。出張読書の会は6月7日駒ヶ林小学校を皮切りに始めて今年度は7校を予定しています。出張読書の会では、各外国にルーツをもつ子ども達に読書の楽しさを感じて貰い、これをきっかけに図書館へ足を運んでくれるように努力をしていきたいと思えます。「在日外国人児童の読書の会」のもう一つの大きな変更は、昨年度は小学生限定に行っていましたが、今年度からは4歳から小学生までと対象を広げた事です。その背景には、就学前の外国人児童の教育を行っているところが少ない状況があります。これも新しい模索ですので、もっとたくさんのノウハウが必要になってきます。これらの課題を図書館のスタッフと共に、多様な情報を取り入れながらやり遂げたいとの覚悟であります。

読書は豊かな感性、好奇心、柔軟な思考を育成し、将来の生き方に大きな実りをもたらします。今後は主に学習塾や図書館の利用の少ない外国人児童をターゲットに読書の会を開催し、彼（女）らが社会で大きく貢献できる人材になる過程での僅かな力でもなれるように頑張っていきます。  
(フフデルゲル)

---

## ■■■KFC中国帰国者支援事業■■■

### ◆中国帰国者対象の居場所づくりを始めます。

KFCでは、昨年度神戸を中心に「在日外国人高齢者生活課題調査」行いました。調査対象の一つである中国残留邦人帰国者と家族は中国文化を根強くもつ上、来日時既に日本語を習得し難い年齢になっていたため日本語コミュニケーション能力が極めて低い状況に置かれています。また、中国の農村部出身で中国においても十分な教育を受けておらず中国語の読み書きさえできない方が多くいます。このような状況により、彼（女）らは地域のコミュニティー活動への参加が難しい上、従来の福祉サービスを受けにくく深刻な孤立状況におかれています。さらに、国策により、広範囲に亘り分散居住しているため、帰国者同士のコミュニティーさえ成立し難くなっています。

幸い兵庫県には、帰国者を対象にした多くの日本語教室があり、帰国者同士が日本語教室に通うことで交流ができ、自分らのコミュニティーを作りつつあります。しかし、日本語教室は語学支援が中心ですので、コミュニティー支援を含む他の分野での支援を行うのが難しいのが現状です。

そこで、定住外国人という少数派のコミュニティーに対して多分野に亘る支援活動を行ってきたKFCは「KFC帰国者新長田交流会」を2011年4月から始めました。「余暇の楽しみ」をテーマに現段階では、太極拳を初め、日本語の歌やゲーム、中国将棋などが出来る帰国者が楽しめるものを取り入れています。その中から帰国者本人による太極拳サークルや中国東北地方の踊りなどのサークルが立ち上がり、将来的に地域の文化祭などで出場できたらもっと深い意義をもつようになるかと考えております。また、KFCとして帰国者の皆様に対して、福祉サービス支援と帰国者二世の就職支援も行っていきたいと考えております。

交流会は基本的に第二、第四火曜日(13:30~15:30)に行っていて、4月の第一回では34名、第二回では29名の帰国者が参加しました。交流会では、帰国者の皆様は太極拳や日本語の歌

やゲームを本当に楽しめているように思います。では以下の太極拳の先生から「楽しい太極拳—こころとからだを健康に！」をお読み頂ければと思います。

なお、支援に関わるボランティアスタッフも募集しています。最後になりましたが、帰国者関連研究を行っている神戸大学浅野慎一教授の講演を6月11日（15：30～17：00）に予定していますので、是非ご参加ください。（フフデルゲル）

#### ◆ 「楽しい太極拳—こころとからだを健康に！」

神戸市シルバーカレッジは「再び学んで他のために」をモットーにした3年制の生涯学習カレッジです。在校生約1300人が国際交流・協力、生活環境、健康福祉、総合芸術等の各分野で学習しています。ボランティアグループも多く、多方面で学習の成果や体験を生かしたボランティア活動に積極的に参加しています。

国際友の会は日本語学習支援、海外研修生支援、高齢者支援などのボランティア活動をしています。KFCでも日本語学習支援にボランティア参加していますが（坂田、川淵）、今回、中国残留邦人等の皆さん方との交流会を立ち上げるに当たり、日本語支援と併せて、太極拳をしたいとの希望があり、国際友の会の秋山、鶴田が太極拳運動支援で参加させてもらうことになりました。

太極拳はゆったりした動きで、身体にも心にも優しく、健康を増進できる優れた運動です。みんなで楽しく身体を動かし、心身共に健康で交流していければ大変うれしいです。

今回の交流会では神戸や他都市から大勢の皆さんが参加され、元気で熱心に日本語を学び、身体を動かされているのをみると私たちも張り切って元気をもらえます。少し難しいですが、練功18法や24式太極拳を徐々に覚えて行かれれば、みんな揃っての見事な演武ができそうでとても楽しみです。

これからも日本語学習や太極拳を通じて仲間がふえ、楽しく交流し、健康で心豊かな生活に役立ててもらえれば大変うれしく思います。

みなさん、元気で頑張りましょう！

（神戸市シルバーカレッジ国際友の会 秋山 義治）

---

### ■■■ ハナの会 ■■■

#### ◆お花見

4月12、15、16日に、お花見をしました。（15日は天候不良のために希望者の2名のみ）  
昨年のお花見では大変寒く、震えながら焼き肉を食べることとなった事で、今年はハナの会で昼食を済ませてから午後から出かける事にしました。満開の桜の木の下にブルーシートを設えて、ぽかぽか陽気の中で、おやつとお茶で一服してから、恒例の歌の時間です！戸外でしかもマイクなしにも関わらず、オモ二達は精いっぱい大きな声で次々に歌われました。他の方が歌っていても関係なく、それぞれに気分のままに気持ち良く歌われる姿に、スタッフ一同笑ってしまいました。これも満開の桜の花の成せる技でしょうか？おやつに持って行ったお菓子やするめを美味しく召し上がる姿に、思い切って出かけて良かったなあと思えるお花見でした。

## ◆壁紙

壁紙は、季節ごとのレクリエーションとして、スタッフと利用者様が数日をかけて製作しています。貼り絵が中心ですが、手先を動かすことでリハビリにもなり、おしゃべりをしながらの作業は大変楽しいものです。これをご自分の仕事と思って、丁寧に美しく貼って下さる利用者様もいらっしゃいます。

## ◆レクリエーション

利用者様のレクリエーションとリハビリの一環として、毎日歌の時間を設けています。チャングの伴奏で、韓国民謡から日本の懐かしい歌謡曲や動揺などを、おひとりずつ順番に歌われます。ハナの会には、本からコピーした歌やオモ二達の歌の聞き書きをしたりした歌を集めた歌集があります。字が読める方は歌集を片手に、字の読めない方にはスタッフが側で補助しながら、歌いたい歌が歌えるようにサポートしています。『歌われへんわ〜。』『忘れたわ〜。』と遠慮される方も、一緒に歌うことで思い出されたりして、次からは笑顔で声を出して歌われています。他の利用者様も一緒に歌うことで元気がもらえます。ハナの会では欠かせない大切なレクリエーションのひとつです。 (ハナの会 スタッフ一同)

## ◆学習する喜び希望～ハルモニの作文より～

私は韓国農村で生まれました。家庭が貧しかったのです。それで小学校も通うことができませんでした。無学のまま成人になって家庭にはいったのです。私は青春もむなしくかぞえ十八歳で結婚してその時は夫は日本におったのです。それで私も日本に来ました。その日から日本ごを知らずまいにち辛い思いですごしました。たまたま友人から西野分校のことを教えていただきました。それで入学することになります。私の年を考えてみるとずいぶんしんぱいで不安しなから図書館をさかしていきました。そこでいろいろ本がある場所で書物の本をさがしてきました。その本を先生方に見せて先生方のたのんでなんかいも読ましてもらって書物の本を見てからその本が勉強になりました。知識を得られることになれば、人前にたつこともできるし、なによりも字を読めば社会の見る目がひろくなり、私は何も知らないものが多いのでなにひとつ自慢することもなくただかなし気持ちたけなのです。人間が生まれてなにかひとつ残すのが人間のやくめでしょうが無学の私は一日でもはやく入学して先生方に字をならいたいと思いましたので入学して見たけど、ほんとうに入学して見ると先生方の温情あふれるお教えにいただきました。勉強にもたんだん意欲が出て時間も流れる知らずあっとゆうまに中学校を終了することになりました。充実な勉強はできなかつたけど先生方の注かれた熱意と誠意はかならず報われるでしょう。それは私たちが一人一人まっすぐにいくこの社会に少しでもらくになることだと思います。形だけの知識の伝授ではなく、真の人生道を説かれる時の先生方の神々しいばかりでした。先生方の教訓を人生の目くよう（目標）と定め（定め）絶え間なく自己の教ようを積みかさねていくつもりです。先生方の私たちにわからなかつた字を教えてくださいましたことをいつまでもわつねる（わすれる）ことはできませんでしょう。先生方の私たちに教わつたいろいろなことをきそにして一生懸命自己啓発はげむつもりです。どうぞよろしくおねがい申し上げます。長いようでみじかい三年間でした。卒業あとも先生方の私達をささえてくださることは本当にありがとうございました。先生一同様おからだがげんきになることをねがっています。 (李季順)

李季順 人生十訓

- 一. 人を大切にすると人は、人から大切にされる。
- 一. 人間関係は、相手の長所と付き合うものだ。



- 一. 人に何をしてもらえるかよりも自分には何ができるかが大切である。
  - 一. 仕事は言われてするものではなく探してするものである。
  - 一. 仕事では頭を使え、人間関係では心を使え。
  - 一. あいさつはされるものではなく、するものである。
  - 一. 解かれるだけが勉強ではない、できることこそ勉強である。
  - 一. どこの学校を出たかではなく、何ができるかである。
  - 一. 焦って選択して、人生ゆっくり後悔するようなことはするな。
  - 一. いい人生はいい準備から始まる。
- 

### ■■■ 今後の予定 ■■■

#### ■ 2011年度総会

6月11日（土） 17:30～18:30

於 アスタくにつか4番館3F

#### ■ 研修会

6月11日（土） 15:30～17:00

「中国帰国者を理解する」

浅野慎一（神戸大学教授）

於 アスタくにつか4番館3F

7月9日（土） 15:30～17:00

「日本語支援者版ポートフォリオ」

小林浩明（北九州立大学国際教育交流  
センター准教授）

於 アスタくにつか4番館3F

#### ■ K F C 研修会

「トヨタ日本語学習支援システム」

6月25日（土） 10:00～17:00

北村祐人（名古屋大学とよた日本語学習支援  
システムシステムコーディネーター）

於 ピフレホール会議室A

#### ■ ハナの会・春の遠足

5月17日（火）～18日（水）

於 須磨海浜公園